

平成19年8月8日

各 位

会 社 名 株式会社 ナノ テ ッ ク ス
代 表 者 名 代 表 取 締 役 嶋 本 篤
コ ー ド 番 号 7 7 7 2 札 証 ア ン ビ シ ャ ス
本 社 所 在 地 東 京 都 港 区 高 輪 二 丁 目 1 5 番 1 9 号
問 合 せ 先 取 締 役 財 務 部 長 飯 島 亨
電 話 番 号 0 3 - 5 7 9 5 - 0 3 0 1
(U R L <http://www.nanotex-jp.com/>)

平成19年6月期通期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成19年2月15日の中間決算発表時に公表いたしました平成19年6月期（平成18年7月1日～平成19年6月30日）の業績予想及び配当予想につきまして、下記のとおり修正することといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成19年6月期（平成18年7月1日～平成19年6月30日）業績予想数値の修正

（金額の単位：百万円）

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	1,071	176	102
今 回 修 正 予 想 (B)	774	118	59
増 減 額 (B-A)	△297	△57	△43
増 減 率 (%)	△27.78	△32.84	△42.23
(ご参考) 前 期 実 績 (平 成 1 8 年 6 月 期)	951	139	84

2. 修正等の理由

平成19年6月期における業績につきましては、精密計測事業では液晶・半導体・ハードディスク製造・検査装置向け静電容量変位計の販売が順調に推移しました。しかしながら、光計測事業では、携帯電話用カメラレンズのOTF検査装置について、大きな売上の伸びを見込んでおりました韓国市場において、韓国国産メーカーの参入等により価格競争が激化し、また、レンズメーカーの設備投資意欲が後退したことにより受注が伸び悩む結果となりました。弊社においては、高付加価値なハイビジョンムービーやデジタルスチルカメラ用のOTF検査装置を開発いたしましたが、本年度の納入には至りませんでした。情報機器事業では、第3世代携帯電話の急激な加入者増により都心部以外でのインフラの整備が追いつかず、回線束ね装置の販売が伸び悩み、心電図伝送装置につきましては、従来機種から第3世代携帯電話ネットワーク対応の新機種への移行やAED（自動体外除細動器）の普及にともない在庫調整が行われる等、市場の大幅な状況変化により販売が減少いたしました。また、本年度末に納入を予定しておりました新規大型案件につきましては、鋭意努力したものの納入スケジュールが変更となり今期業績への寄与には至りませんでした。

以上の理由により、当初の想定を大きく下回り、売上高7億74百万円（前期比18.63%減）、経常利益1億18百万円（前期比14.93%減）、当期純利益59百万円（前期比30.00%減）となる見込みとなりました。

3. 今後の対応

平成19年7月より、中長期的な視点での新規事業の開発を効率的に行うために、新規事業開発部を新設すると共に、事業の効率的な運営を図るための人事異動を行っております。

新規事業開発部では、既存事業の枠にとらわれない当社のコア技術を基にした先行的技術開発や他分野への応用展開等を開始し、事業統括本部においては、既存事業をベースにより強固な事業体制の構築を目指し、製造の効率化や高付加価値化、既存顧客の深耕、新規顧客獲得にむけた営業活動を積極的に進める等、それぞれの事業における短期的な収益と中長期的な成長性のバランスをとりながら業容の拡大に向け、全社一丸となって邁進してまいります。

4. 配当予想の修正

(1) 配当予想修正の理由

当期は、期末配当として1株につき1,000円を予定しておりましたが、前述のとおり、前回発表時の予測より当期純利益が減少する見込みですので、誠に遺憾ではありますが、期末配当予想を下記のとおり修正いたします。

なお、当該期末配当金につきましては平成19年9月に開催予定の当社第6回定時株主総会において正式決定する予定であります。

(2) 修正の内容

基準日	1株当たり配当金（円）		
	中間期末	期末	年間
前回予想 （平成19年2月15日発表）	—	1,000	1,000
今回修正予想	—	500	500
前期実績	—	—	—

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後、様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上